

むすびめ通信

エペソ 4:16



湯本沙友里 ニュースレター



お祈りと暖かい励ましに、心より感謝いたします。
アフリカのエチオピアでの働きに関わることに導かれ、調査の為に2017年6月から現地を訪問し、11月3日に帰国しました。現在は名古屋に拠点を置き、しばらくは日本で、今後の取組に向けた具体的な計画を立てていきます。

ルワンダ訪問

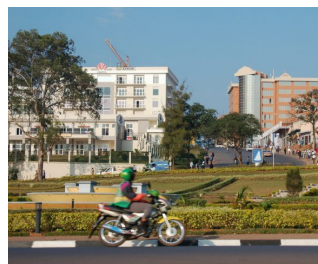
～ジェノサイド(大虐殺)の傷跡と、急速な経済発展～

ビザ更新の都合で一時的にエチオピアを離れる必要があり、兼ねてから関心のあったルワンダに2週間滞在しました。その内の1週間は、長年アフリカでの働きに関わっておられる宣教師の竹内緑さんにお世話になり、活動場所のリリマ町(首都キガリから南へ60キロにある東部県)にも訪問させて頂きました。看護師でもある竹内さんの活動内容は、1994年に約100万人が犠牲となったジェノサイド(大虐殺)や夫による暴行、貧困などによってトラウマ(心的外傷後ストレス障害)を抱えた女性達とその家族を支援するものです。



ジェノサイドから20年以上経った今、ルワンダは「アフリカの奇跡」と呼ばれるほど劇的な経済発展を遂げており、ビジネス環境の整った国として、特にICTの分野で注目を集めています。驚いたのはキガリ市内のキレイな街並みでした。ドイツ・ベルギーの植民地時代の影響からか、情景と環境に配慮された街づくりがされており、レンガ造りで赤い屋根のヨーロッパ調の美しい家々が多く見られます。高層ビルが立ち並ぶオフィス街やショッピングモール、オシャレなカフェなどもありました。小高い丘が多い地形なのでアップダウンの多い道ではありますが、それもまた大自然と街が調和した独特の美しい景観を作り出していました。

国民は月に1度、地域への奉仕活動への参加が義務づけられているようで、清掃活動などが行われています。



首都キガリの街並み



ブタレにある国営の民族博物館

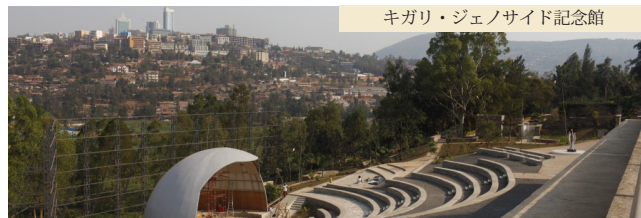
買い物時にもプラスチックバッグ(ビニル袋)の利用は禁止されているので、どこのお店も紙袋か、持参のエコバッグを使います。しかしながら、そのような美しさや将来への可能性に富んだ経済状況、一般に出回っている情報等とは裏腹に、政府による情報のコントロールや汚職、利権が絡む問題なども少なくないと感じました。



大虐殺の現場の一つとなってしまった教会には、犠牲になった方の遺骨と服がそのまま展示されていました。

ルワンダで過ごした時間の殆どは、休息とエチオピアでの前半の活動のまとめのために使いました。キガリから南西に約120キロ、バスで山道を走ること約3時間離れたところにあるブタレ(Butare)という町を訪れたのですが、道中や街中では奉仕活動を行う服役中の人々を至る所で見かけました。ジェノサイドの加害者を裁定するガチャチャと呼ばれる民衆裁判は5年前に終わり、近々刑期を終えて社会に戻る人々もできます。

ブタレでは思い掛けず、エチオピアとルワンダで長年宣教の働きをされている日本人ご夫婦にお会いすることができました。ご主人は現在ブタレにある大学で平和学を教えておられ、日本人留学生も何人か学んでいます。長年ルワンダの人々に寄り添い続けていらっしゃるご夫婦とお話できたことは、ルワンダの歴史を本や情報から学んできたこと以上に大きなインパクトを持って私自身の事となって迫ってきました。「原罪、平和、和解、回復」について考え、悲惨な状況を経験した人々の心を思いめぐらせる機会が与えられたことは貴重な時間であり、今後もこのテーマについて学び、考え続けていきたいと思っています。



キガリ・ジェノサイド記念館

ルワンダの人々のかたわらで

今回ルワンダでお世話になりました竹内緑さんの活動報告ニュースレターで、私が書かせていただきました訪問記が紹介されています。この通信を読んでもらっているみなさんにも竹内さんの活動をご紹介します。掲載いたします。

【竹内緑さんの働きを訪問して】

緑さんの活動は、2016年にパンフレット制作の仕事をご依頼いただいたことで知りました。

2013年から約1年弱、エチオピアとケニアで子どもや女性たちの貧困問題解決にむけての取組みを行う現地NGOでボランティア活動を経験した私は、今後どのような働きに導かれているのかを祈りより深く知っていくために、日本の一般企業で働き学びながら、「人が真の自立をしていくために大切なことは何か」について、考えさせられていました。

そんな中で緑さんが活動される上で大切にされている「活動の4つの柱」が深く心に留まりました。「精神的、社会的、身体的、霊的」、人の健全な回復にはそのどれが欠けてしまっても不十分であること、人それぞれが抱える問題や状況を理解して相手の声に耳を傾けながらそれぞれのペースで、必要な援助を行っていくことが大切であるという気づきが与えられました。そして今回、再びエチオピアへ来た私は、兼ねてから関心のあったルワンダへを訪れることにしました。



緑さんが関わっておられる若い女性たちが負った想像を絶する苦みの人生は、大虐殺の痛みを抱えた人々からの負の連鎖の結果でもあることを知りました。直接的な虐殺の被害を受けていなかったとしても、苦みの経験がもたらした症状や状況はどこかで断ち切られない限り、親から子へ、または前の世代から次の世代へと引き継がれてしまいます。トラウマは時間と共に自然に消滅していくものではなく、放っておくと症状は悪化するばかりか、時間をかけてその人自身と人生を蝕んでゆくというのです。周囲の人々には理解されずに孤立し、差別の対象とされ、時には周囲から攻撃され、自らをコントロールできずに苦しみ、身近な家族を不本意ながら攻撃し、一番大切な人たちを傷つけてしまい、傷つけられた子たちもトラウマを負い、将来同じことを繰り返してしまう、そんな、どうしようもない状況にもがき続けていることを知りました。

自らが抱える問題は一向に解決しないどころか、そこへ向けて進みだす力も湧かず、本人には更なる苦みがのしかかると言います。本人の責任から始まったものでなかったとしても(キリスト教の概念として全ての人に罪があるということが前提ですが)、負の実を刈り取り続けなければならないのです。

それを断ち切ることができるのは誰でしょうか。本人が立ち上がるしかありません。

しかし、一人では乗り越えられない大きな問題が目の前に立ちはだかっているため、どうかしたいと思っていても、原因も方法も分からず何も見えてこないのです。それはまるで深い暗闇の中にいるようで、今の居場所もどこへ向かえばいいのか分からない状況だと思います。そんな女性たちが必要としているのは助けてくれる誰かの存在です。困難な状況にある方々へ「希望」の光を差し伸べて、「あなたと共に歩みます」と優しく語り掛け、道を示し続けること、それが緑さんの働きだと思いました。それはイエス様が私たちにして下さったことを、知らない人々に見えるように実践する行為だと思いました。

「その人の抱える問題を理解し、時に介入し、その人生を共に歩み、見捨てない」という、寄り添う側の生き方を、緑さんやスタッフの仕える姿から教えられました。



支援を受ける女性の住む家へ向かう道

トラウマを負った人々の症状の一つに、「希望が持てない、夢を描けない、将来の計画を立てることができない」というものがあることを知りました。また、正しい解決方法が分からずに、間違った道を進んでしまうこともあるといいます。また、トラウマを患ってしまう人は女性が圧倒的に多いという話も聞きました。女性は豊かな感性が与えられていると同時に傷つきやすく、弱い存在です。その女性を理解して寄り添い続けることができるのも、女性だからこそその働きだと思いますし、緑さんが持つ深い優しさと忍耐力、培ってきた経験により養われた知識、そして覚悟と責任感は、その背後にあるイエス様が注ぎ続けてくださっている豊かな愛とともに、傷ついた女性とその家族を包み込み、安心感を与えているように感じました。

受益者の女性たちの言葉が、私の心に深く刻まれています。「これまで幸せを感じたことも、自分や子どもの未来など考えたこともなかったが、今はとても幸せを感じる。子どもたちの将来についても考えられるようになった」

「過去の私は人間ではなかった。今ようやく人間になった」
「近所では誰も自分を助けてはくれなかった、自死も考えた。なのに遠い日本から緑さんがこんな田舎まで助けに来てくれた。それは神様だけがなせる業だ」

その一つ一つの証が、神様のストーリーとして過去と現在、そして未来へと希望を紡いでいくのだと思うと、胸が熱くなる思いです。

女性たちは、差し伸べられた手を信頼し、立ち上がる決意をして、新たな歩みを踏み出していきます。それはとても勇気があることだと思いますし、自分の過去と痛み、現在抱えている問題に向き合うというのは、簡単な事ではないはずです。沢山の失敗も経験することでしょう。

しかし諦めずに歩み続けようとするその姿から、私自身が勇気づけられ、励まされたことは言うまでもありません。そして回復した女性たちは自ら、「自活していけるようになったので、経済的な支援はもう終わって大丈夫」という決意を話してくれると聞いたのは驚きでした。

人が社会で奮闘し努力ができるのは、決して当たり前には備わっている力ではなく、家族や身近な人に愛されてきた経験や、支えてくれている誰かがいるという安心感を得て養われたからこそ、築き上げられた土台なのだと、ある本で読んだことがあります。神の家族の健全な姿も、そこにあると思いました。



支援により回復に向かう女性とカウンセラー



田舎町にある一般的な家

彼女たちはよく、優しくて穏やかな素敵な笑顔を見せてくれました。痛みを完全に拭いきることができなかったとしても、逃げずに歩み続けてきたことで培われたその特別な笑顔は、次の世代の光となっていくことと確信しています。

できるだけ多くの人に関わろうとするのではなく、目の前の一人にじっくりと関わって見守り続けるという、一見最も小さく思えるような働きが持つ尊さと豊かさと大きさを知りました。

また、緑さんには個人的なこととして、私自身の今後のアフリカでの働きや信仰面について、ご自身の経験や学び、主に語られてきたこと等を分かち合って頂きながら親身に相談にのって頂き、深い学びの時となったことを感謝しています。そして、ルワンダでの生活スタイルも、丁寧かつシンプルで無駄がなく、それでいて美しく、見習いたいと惚れ惚れするほどでした。忙しくて簡単にモノを手に入れられる現代の日本では忘れられがちになっている、本当の生活の豊かさを見せて頂いたような気がします。生活や食事を整えることが生きることの土台づくりであり、主が託してくださっている「自分を管理」することの基本であり、善い働きへと繋がっていくのだと、生活からも主を慕われる姿に感銘を受けました。

全てにおいて、祈り、働き、自分自身がつくり変えられていく、という過程を求めつつ歩みながら、いかに生きるべきかと自問し続け、イエス様の後を追いついていこうと願う緑さんの姿と働き、そして豊かな交わりの時から、主にある沢山の大切な事を教えていただきました。心より感謝いたします。

エチオピア滞在の後半編

NGOの働きを中心として活動した前半とは動きを変えて、ビジネスの分野でも宣教に視野に置きながら、働きを担う方々と繋がる機会が与えられました。

次回の通信では、エチオピアで事業を行う方々と、そこからの学び、今後の計画についてご報告いたします。

祈りの課題

- ・日本で繋がっているみなさんから学び、キリストの体として仕え、働きを担っていくことができるように。
- ・今後の働きに向けての計画を祈りながら導きの内に進めていくことができるように。

ご案内

YouTube はじめました。

チャンネル名：

「MUSUBIME works」

エチオピアのイメージが伝わるよう、現地での活動や日常の様子を動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



■「声なき者の友」の輪 (FVI) ウェブサイト
(FVI...Friends with the Voiceless International)

<http://karashi.net/> 「共に喜ぶ世界」で検索

■ホームページ制作のご依頼受付中！

ウェブサイト制作事業「むすびめワークス」

<http://musubime-works.com/>

エチオピアでの働きをしながら、ウェブデザイナーとしての仕事も継続しています。教会やNPO、企業のホームページ作り、パンフレットデザインなどを行っています。ぜひご利用ください。

連絡先

湯本 沙友里 Sayuri Yumoto

Email : sayuri@karashi.net

支援のための献金方法

「声なき者の友」の輪 Friends with the voiceless International (FVI) の働きのために、お祈り、ご支援をよろしくお願いいたします。活動報告は随時、ホームページでご覧いただけます。

経済的支援をもってご協力くださる方はお手数ですが以下の口座にお振込みください。

ご支援を心より感謝いたします。

ゆうちょ振替口座 口座番号：00180-0-300201

名義：FVI

湯本支援は通信欄に「湯本指定」とご記入ください。

「湯本指定」の支援金は、現地滞在費を含む、活動費全般に充てられます。

会計報告は FVI の年次報告をもって代えさせていただきます。過去の会計報告は FVI ホームページよりご覧いただけます。